

1 日程

期 日	場 所	内 容(講師名)
9月6日(火)	名寄市民文化センター 名寄市学校給食センター	(1)説明「北海道の少子化対策について」 説明者 上川保健福祉事務所子ども未来係長 橋口 佳典 説明「研究協議会の持ち方について」 説明者 上川教育局社会教育指導班主査 小堀 雄二 (2)講義「考えよう!子どもたちの食育」 講師 市立名寄短期大学教授 小平 洋子 (3)ゲストトーク「農業と土」 発表者 生産者 名寄市智恵文 夏井 岩男 ゲストトーク「地産地消と名寄市の学校給食」 発表者 栄養士 名寄市学校給食センター 大久保 美幸 (4)グループ協議 テーマ「グループづくりと理想の共有」
10月5日(水)	北海道名寄農業高等学校	(1)学校紹介「地場産品の活用と地域振興」 説明者 北海道名寄農業高等学校長 坂本 邦和 (2)グループ協議 テーマ「個々人の活動と課題の整理(原因・背景)」
11月16日(水)	名寄市民文化センター 名寄市立名寄小学校	(1) グループ協議 テーマ「対策のアイデア」 (2) グループ間交流 (3) 学校紹介「名寄小学校の教育」 説明者 名寄市立名寄小学校長 香川 芳見 (4) 説明「子どもたちの食育と学校給食」 説明者 栄養士 名寄市学校給食センター 大久保 美幸 (5) フリップボードディスカッション 進行 上川教育局社会教育指導班主査 小堀 雄二

2 協議会メンバー

氏 名	市町村名	所 属	氏 名	市町村名	所 属
岩村 奈緒子	遠別町	遠別町読み聞かせ会	佐々木 清貴	留萌市	地域子ども教室(留萌市教委)
日向寺 留美	幌延町	読書会「たんぽぽ」	小野田 年克	苫前町	地域子ども教室(苫前町教委)
川野 恵子	東神楽町	「おうまのおやこ」	鴨田 隆	下川町	地域子ども教室(下川町教委)
坂本 ちひろ	美瑛町	お話し会「あいあい」	小林 孝幸	上川町	地域子ども教室(上川町教委)
大澤 葉子	浜頓別町	「なかよし童話会」	小泉 貴裕	豊富町	地域子ども教室(豊富町教委)
中村 佳臣	稚内市	大黒図書館友の会	鈴木 基代司	猿払村	地域子ども教室(猿払村教委)
高松 雅人	小平町	子ども会育成連絡協議会	春日井 征輝	羽幌町	家庭教育支援(羽幌町教委)
宮下 守	天塩町	子ども会育成部連絡協議会	平井 裕美	苫前町	家庭教育支援(苫前町教委)
米澤 義英	上富良野町	子ども会育成協議会	中田 健裕	旭川市	家庭教育支援(旭川市教委)
稲益 久仁子	風連町	子ども会育成連絡協議会	渡辺 英行	美深町	家庭教育支援(美深町教委)
徳保 喜幸	枝幸町	子ども会育成連合協議会	棚橋 亨	浜頓別町	家庭教育支援(浜頓別町教委)
須藤 武保	猿払村	子ども会育成連絡協議会	渡部 恒久	歌登町	家庭教育支援(歌登町教委)

3 協議会コンセプト



(例) 読み聞かせボランティアグループ



4 グループ協議等の内容

1 回目 9月6日

学びの成果を地域で生かす

宗谷・留萌・上川の3管内から「読み聞かせ」「子ども会」「地域子ども教室」「家庭教育支援事業」に係る22名が名寄市民文化センターに集結した。冒頭、西田上川局長が昨年実施した「道民意識調査」の家庭・地域教育力に関するデータを報告し、この協議会を通して家庭・地域教育力の向上に向けて、道北から全道に発信してほしいと願いをこめた。

説明

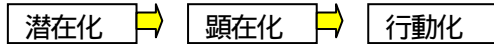
はじめに、保健福祉事務所子ども未来係の橋口係長が、全国に先駆けて昨年10月『北海道子どもの未来づくりのための少子化対策推進条例』を制定し、そのアクションプランとして「北の大地 子ども未来づくり北海道計画」を策定し、具体的意識啓発事業として福祉と教育が相互連携を図り14生活圏域で『少子化フォーラム』を開催すると説明。

「懐かしの学校給食」

名寄市教育委員会のご配慮で、名寄市学校給食センターまでマイクロバスで移動。「共生と協働...そして、体の栄養から心の栄養(健康)を！」をテーマとした、当施設は地場産品の積極的な活用と地場企業の育成を目指す地域一体型のセンターである。アッと、驚いたのは地元名寄市の農業「夏井 岩男」さん。

作物づくりは『土』づくりときっぱり言い切り、作物の心理までもつかみとっている。

これらの話を通して、だれもが基本は『家庭』であり、周りの環境の大切さに気付いたのではないのでしょうか。土づくりも子育ても同じであるということ。



ゲストトーク

市立名寄短期大学 教授 小平 洋子 さん

「考えよう、子どもたちの食育！ ～学校と家庭そして地域で～」

と題して講演。この中で、先生は学童期に育てたい力として、食育を掲げ、食育を『人々が人間らしく生きる・生活する資源・人々の健康の資源』と定義し、「現在をいきいきと生き、かつ生涯に渡って健康で質の高い生活を送る基本として「食を営む力」「生きる力」の育成を家庭や地域との連携から進めること」を強調した。



の割合で！

《子どもの実態》

- ・増加する孤食の子ども
- ・肥満の増加
- ・痩身志向から痩身傾向

【理想像の共有】

ファシリテーターの「前向きな思考」で！という言葉で発展的な話し合いができたのではないのでしょうか。グループの4枚の写真およびイメージは別紙のとおりです。次回、10/5は現実の課題からグループ内で『ヒント』を獲得できるように進めたいと考えています。



4枚の写真をつなげ...

【読み聞かせ】

「親子の信頼関係の構築と子どもの自立」

【子ども会】

「集団生活で仲間意識や地域の絆を高める」

【家庭教育総合】

「子どもの自立・独立を促すための機能を持つ」

【地域子ども教室】

「住民一人ひとりの成長」

驚いた20枚の写真

写真を見て、イメージできるキーワードを付箋に記入し、それぞれの写真に貼り付ける。

20枚の写真をグループ全体で見比べ、自分たちの取組みが「どのような家庭や地域を実現したいか」について話し合い、説明に使うための4枚を選定(結構、難しかったけどいい話し合いができていました。

4枚の写真をプレゼンテーション(つなげる)

どのグループも圧巻！



子ども会グループの理想像



《読み聞かせ》



- ・ゆったり
- ・のびのびと
- ・自由に



- ・真剣に(表情・眼差し)
達成感を知る



- ・持ちつ持たれつ
- ・(読み聞かせ)やるほう
もやってもらうほうも
経験する



《地域子ども会》



- ・子ども会活動の理想は
高い目標を持ち



- ・子どもたち自身が企
画・計画を立てて



- ・異年齢との活動
- ・自然体験活動
- ・ボランティア活動など
様々な活動



《家庭教育推進事業》



- ・先行きが見えない中
でも、未来に向かって続く
道を楽しみに思う



- ・赤や黄色や緑のよう
に、周りの色に染まらな
い(個性)



- ・親から独立、自立した
(巣立ち)



《地域子ども教室》



- 企画力
- ・真剣に
- ・それぞれの
意見や考えをまとめ
る
- ・自立



- 実践力
- ・昔の話を聞く
- ・地域の素材力
- ・楽しみ
- ・世代間交流
- ・年長者の知恵



- 成長
- ・豊かな感性、感動



課題の整理（問題点とその背景）



《名寄農業高校》



《読み聞かせグループ》

- ・読み聞かせ
- ・リトルキッズお話し会
- ・ブックスタート事業支援
- ・布絵本づくり・高校生による読み聞かせ
- ・学校を訪問しての読み聞かせ ・コミュニケーションを図る場の設定



3項目絞込み ・ブックスタート ・お話し会の実施 ・行事（創作体験活動）の実施

問題点

第一 ・人材の確保

仕事をしている人が多い
既成サークルに入りにくい

PR不足

団体や組織に参加することを敬遠する

第二 ・参加者の減少

団体、大人からの働きかけ
環境の設定

第三 ・マンネリ化が

新しい情報を入れる（情報不足）
学ぶ機会の不足



振りかえり

《地域子ども会グループ》

(問題点)

第一 ・子どものための(中心の)活動になっていない

事業計画を消化していくだけの育成会活動となっている
子どもの意見を時間をかけて聞いたことがなく、大人の集まりで決めている
子どもの育成を目的とした活動が行われていないし、また、少ない

第二 ・単位子ども会の活動に差がある

全体で子ども会活動の意義を理解していないので温度差が生じている
自己中心的な考え方が増えてきていて、地域コミュニティがなくなってきた
「会」の活動に積極的に係ってくれる学校の先生の有無により格差がある

第三 ・育成者(指導者)の参加・協力が足りない

地域全体で子どもを育てようという意識
仕方なく育成者になっている
育成者が多忙

交流の様子

グループ間交流は随分和やかな雰囲気で行われましたね！



《家庭教育支援総合事業グループ》

(問題点) 第一 ・事業の参加対象者の求めているニーズが何であるかわからない

評価をしていない(やり方がわからない・忙しい・必要感がない)
参加者を主体とした事業組み立てをしていない(参加者に時間が必要)

第二 ・家庭教育事業に関心がない

親が子どもをよく見ていない(自分の生活で精一杯【生活費が大変・親の遊び中心】)
親になるまでの間の教育(社会)が足りない(協働体験の不足・18 から 20 歳を対象とした社会教育の不足・学校教育との連携不足)



《子ども教室グループ》

(問題点) 第一 ・地域住民の係わりが少ない

実行委員会が機能していない(選び方の問題【特定の人にしか声をかけない・人材を発掘していない】)

周知の方法が良くない(宣伝媒体が少ない・チラシが見づらい)

仕事があるからこられない(職場の理解がない【職場への周知が足りない】)

学校の協力不足(先生の社会教育に対する意識【学校の仕事が忙しい】)

関心が乏しい(内容が乏しい【参加者の声をフィードバックするような誘導がない】)



実践可能なアイデアを

11月16日、3回目(最終)の協議会を名寄市民文化センター・名寄小学校で開催。同一メンバーでの研修のためすっかり気心が知れ、和やかな雰囲気の中、「改善デザイン」が提案され、グループ交流した後、協議の成果を「土産」にそれぞれの地域に戻っていった。

いじめや不登校、ニート問題等は幼いころからの養育環境が無縁ではないはず。私たちは、これを「見逃すことのできない緊要な課題」と位置付け、家庭や地域の教育力の充実等のための社会教育行政の体制整備の更なる向上を目指し、家庭・地域の支援に多数の方々が参画できるように協議会を立ち上げた。「教育の原点は家庭であることを自覚する(平成12年教育改革国民会議 17の提案)」を念頭に置いた協議会の最終回である。

懐かしい・児童と一緒にの学校給食

名寄小学校

この日の昼食は、名寄小学校(香川 芳見 校長先生)で子どもたちと一緒に食事をとりました。とても活力があり、元気いっぱいの挨拶・声かけにリードされ、

若干参加者が緊張気味。その子どもたちのエネルギーは、教育目標の「ひびき合い 輝く子」のとおりでした。参加者の中には、「学校で流行っているものは何?」「夜、どんなテレビを見ているの?」「休み時間はどんな遊びをするの?」と質問をする姿も。逆に、「小学生のとき、何になりたかったの?」と質問される場面(汗!)も。



また、後始末のときは、身近な環境学習の一面も。「何か、子どもに習うことが多いなー」と思ったのは私だけではないのでは...。この事業に理解・協力いただきました名寄小学校のみなさんに心からお礼申し上げます



また、後始末のときは、身近な環境学習の一面も。

「何か、子どもに習うことが多いなー」と思ったのは私だけではないのでは...。

この事業に理解・協力いただきました名寄小学校のみなさんに心からお礼申し上げます



名寄市の学校給食は

地場産品の活用(献立に季節感を盛り込む)

児童生徒に、まちの特産品に関心を持ってもらう

アンコールリクエストメニューの取組み

(3月の献立は、一年間の給食を振り返り、毎日がアン

コールメニュー)。この取組みは、昭和63年から続いている

親子料理教室の開催(学校給食の人気メニューを身近な食材を用い、親子でつくる)

などなど、様々な工夫がされている。

おなじみの
大久保さん



コンセプトの確認

重要

1回目(9/6)

○説明
・協議会のねらいや進め方を共有する

○ゲストトーク
○食育ビュッフェ
・「食育」をテーマに具体的事例を伺う

○グループワーク①
・アイスブレイク
・ゴールを共有する
・それぞれの活動の結果として理想とする姿は?

2回目(10/5)

○個人ワーク
・個人作業で活動の現状を見つめ直す何が問題?どこが課題?

○グループワーク②
・グループメンバーの力を借りて、問題が本当に問題なのか、チェックする
・ついでに解決策のヒントももらいましょう

3回目(11/16)

○プレゼンテーション
・グループワークの成果を交流しあい、全員でより良い活動につながるコメントをしましょう

○まとめ&決意表明
・変えるのは「思い」ではなく「行動」
・せっかくできたネットワークを大切に

あんなことば・こんなことば 名言集

家庭から祈りの姿が見えなくなった

地域をつくるのは人。子どもは社会の宝

言葉であれ、食べ物であれ愛情が人を育てる

各グループの問題点と対策のアイデア

[読み聞かせ group] ファシリテーター 上川教育局 佐々木 浩典

ここが問題 はアイデア

優先順 1位 人材の確保

原因 仕事をしている人が多い
PR の不足(広報のあり方)

負担の少ない方法を考える・活動の時間帯をかえる
いつでも仲間を募集していることをチラシや広
報誌等に掲載
市町村の防災無線を活用しての呼びかけ

2位 参加者の減少

原因 団体、大人からの働きかけ不足
環境の設定

読み聞かせの会の日にこだわらず、子どもが集って
いる場所に出向く
各企業や官公庁の一室を気軽に借りることができるシステム

3位 マンネリ化

原因 情報が不足している ネットワーク化
学ぶ機会の不足 個人が受けた研修を、伝達講習に発展させる



他のグループからのコメント

自分自身が活動して良かった。また、活動したという自分自身の充実を主に考えて行動することも重要。

すばらしい活動をなさっていると常々考えております。心から敬意を表します。今後共頑張ってください。

自らが楽しく活動することは相違と工夫が大切である。めげずにやるのが大切だと思いました。

読み聞かせだけをやらずにグループ内で人形劇をやったことがありました。知り合いのお母さん方等に声をかけてみた結果、ボランティア数名が集い、また、子どもたちの参加も普段の数倍集まりました。あわせて、読み聞かせの魅力も参加者に感じてもらいました。

長く続けていればいほど家族的なイメージのサークルになりますが、その分、新たに人材が入りにくいと感じました。新たな人材を入りやすくするという意見に共感しました。

都合のつく人が都合のつく時間にと、というのが良いと思いました。

読み聞かせに関しては偉大なるマンネリズムを追求してもいいのではないかな。

多くの人に参加してもらうためのアイデアがたくさん出ていてすごく良かった。

毎月1回、出前で小学生に読み聞かせ会を固定し実施している。特に1～3年生。

親が読み聞かせをすることもいいアイデアですね。どの親もこれをやれるような展開になればいいかも。

地域子ども教室のメニューとして読み聞かせを学校で夕方にやってみてはどうでしょうか。

子どもや親からアンケートをとってみてはどうでしょうか。

読み聞かせは専門家でなければできないというイメージがあります。読み聞かせをしていただいたことでこんな大人になれたという事例はないでしょうか。

読み聞かせの進め方については段階を作ってははどうでしょうか。例えば、最初に紙芝居、次に絵本、そして本の順番など。



ここが問題

優先順 1位 子どものための活動になっていない

原因 子どもの話をきいていない 子どもの意見、アイデアを聞く場面を設定
計画は大人が立てている 計画段階から子どもが参画できる環境を設定
子どもの育成を目的とした活動をしていない 小・中・高とリーダーを養成して、子どもと大人の風通しをよくする



優先順 2位 単位子ども会の活動に差がある

原因 育成者のリーダーシップの差 育成者自身のスキルアップ、研修会の実施
地域(海・山・市街地)の差 子ども会間の交流実施

優先順 3位 育成者(指導者)の参加・協力が少ない

原因 仕方なく育成者になっている人が多い
育成会を子育て中の世代に一任するのではなく、老、壮、青、全体で担えるような地域づくりを進める
一部の指導者に頼っている
地域全体の取組みとしての周知、子どもが卒業しても関われる組織づくり

他のグループからのコメント

子ども会は地域が必要を感じて運営されることが理想だと思います。一度全部解散してみても？必要性が感じられれば再度結成されるはず。代わりにできる組織がある可能性もあると思います。

子ども会といっても実際にしているのは大人で、子どもに責任感がないというか、大人が用意したものをただするだけ、になっているので、計画や準備など、子どもの代表(会長?)を入れて、サポートしながらさせては？

自分達で創りあげるのが子ども会活動だと思うが、子ども達は本当に忙しい。計画立案も子どもがやるべきだが負担になると子どもは離れる。ジレンマですね。

単位子ども会がバラついている(多いところ、少ないところ)ので見直しも必要では？

単位子ども会での事業に親子で行えるメニューを多く取り入れることがよいと思う。

地域子ども会(単会)の活動内容や指導者による温度差はあるのはしょうがない。その部分を協議会等の事業で穴埋めしたり、指導者は指導方法を学んではどうでしょうか。

「単位子ども会対抗レク大会」(仮称)を子ども達に企画させ(親は見守る)子どもに運営させるような試みはいかが？(子どもを「名前」で呼ぶ!!)

大人が地域の子どもの関心を持つ工夫が何かないかは今後ずっと問題になっていくような気がする。

若い親は多勢とかかわるのが面倒なのかも、でも、真剣に子どもと遊んでくれる大人も必要。子育て終わったおじさん達も協力してもらえれば。

現実として子どもを持つ親に積極的に参加してもらうのがよいのでは？ただし、地域性や継続性を考える核となる人材が大切になる。

育成者の研修・勉強とは具体的に何をすべきなのでしょう？

子ども達が主体となって活動できるよう大人が学んで、大人が「あ～あ やった」と満足に思うのではダメかなと。

いろいろな場面でたくさんの ”カリスマ” 子どもが、でるとおもしろいナー



ここが問題

優先順 1位 事業の参加対象者の求めているニーズが何であるのか分からない

原因 評価をしていない

やり方がわからない 評価の仕方を学ぶ

必要感がない 業務の一つとして取組む

参加者を主体とした事業組立てをしていない

失敗体験を持つ 事件・事故を予測し、対応策を講じておく

警察、児童相談所、法務局といった関係機関にいつでも話せる体制づくり

公民館など、気軽に集まれる施設の提供

優先順 2位 家庭教育事業に関心がない

原因 親が子どもをよく見ていない

生活費や親の価値観

親になるまでの間の教育が足りない

参加者主体の学習形態を学校教育に取り入れるよう制度化

学生の子育てボランティアへの参加呼びかけ



他のグループからのコメント

役所縦割り方式では問題は解決しない。民間との連携。コンサルタント。

目を向けてほしい人には伝わっていかないのはわかる気がします。でも、地道に続けることが大事では？

未就学園児及び若いお母さん同士の母親教室的コミュニティの場を取り入れることは？

向こう三軒両隣のような地域の中で家庭教育も自分の家庭だけではなくみんなで子育てしないと大人も子どもも成長しないことを大人達が必要である。

関心のない人は孤立している人が多いのではないのでしょうか。自分が参加するときには一人にでもいいから声をかけていくと、参加しやすい心配りをする。

家庭教育グループの目標が見えない。

マスコミ関係の悪影響がある。

何となく集まれる場(学校・公民館などの空部屋)づくりから始める(情報交換、共有、仲間・・・)。

家庭教育は大切だと思います。人として生きるための基本ですから。でも、実際にどんなことを？と問われると一人一人ニーズが違って難しいと思います。

親になる心構えを教えることは大事だと思う。

福祉部局との連携が必要だと思います。

生活費が足りない？

家庭教育は大変幅広く、現在進行形の人にはなかなか現実を見つめることは難しいと思います。経験者の話をいろいろ引き出すことが大切。



ここが問題

優先順 1位 地域住民の係わりが少ない

原因 実行委員会が機能していない

「あて職」ではなく、情熱のある人を一本釣りに

広報誌や回覧板で募集する

周知の仕方が悪い

手書きのチラシ(工夫)

募集の周知ばかりではなく、活動内容や実績を広くPRし地域での関心度を高める

仕事があるからこられない

子どもたちと職場訪問

企業が協力できるような内容を実施

学校の協力不足

活動の場に学校を利用する

先生方と交流する場を多くする

関心がない

内容が乏しい

参加者の声をフィードバックするような誘導がない

教室に参加している子どもたちの生の声をアンケート等で直接吸収する



他のグループからのコメント

実行委員は参加する子どもの親がやるのはどうでしょうか。

役所はコーディネーターに特化し、運営は親や子どもたちにまかせる方式を取り入れてはいかがでしょうか。

運営主体が明確でないような気がする。

学校を地域コミュニティの場所とするのは当然のことと思いますので、継続的な活動ができるようにしたい(子ども会活動とのタイアップも)。

仕事があるから来られないという問題を職場を訪問するという発想でカバーしているところがよい

学校に過度な要請をすべきではない。便りにならないのが当たり前と思いたい。子どものためにだけでなく、大人の地域づくりのための教室に。

チョット(行政職員は)無理してほしい。

職場の理解とは？

今、子どもたちの関心を持たせるのは難しいと思いますが、そのような子どもの気持ちを後押しするための取組では？

街中の子は参加しやすく楽しく行っている話も聞きますが、僻地の子はどうしているのだらうと思います。

地域の大人達の協力をいかに得るかが大切な事業だと感じます。

コーディネーターが実際に子どもと接し、遊ぶことのできる工夫で子どものニーズにあった内容が組めると思う。

子どもがしたいことを前もって知ってから計画を立てるともっと参加者が増えるのでは？



5 まとめ

3回の協議会を通して、皆さんは今までとは何か違ったものを感じたはず。「連携・協力」といった抽象的な言葉ではなく「実践可能な具体的アイデア」を一人ひとりが考え協議した賜物だと思う。終了後のロビーは、情報交換する場面も見られ、これも「成果」のひとつと認識している。

午後のフリップボードディスカッションで、「対策を実行するために、最初に今回の成果を伝えたい人は」との問いに、ほぼ全員が身近な人物を表現し、「自分たちで・グループの仲間とともに」という主体性も見られ、改善方策を実行に移すためには、共感できる『人』であることを伝えてくれたことも大きな成果であると確信している。



《フリップボードディスカッション》 読書G 子ども会G 家庭地域G 子ども教室G

問 1 「3回目を終わろうとしている今の正直な気持ち」

話し合いを通して、子どものことを色々な方向から考えていることを知った
他地域の同じグループの方と会うことは成果があった。しかし、主催者が何をしたいのかまだ分からない
地域に戻ったら実践できることから始めたい
ここで体験したことを地元に戻って発信しなければ意味がない
仕事上の反省ができた
おいしかった「旬 家庭教育」
具体的な行動を取ることが重要だと認識した
他の地域の子どもの教室について情報を得ることができた



問 2 「最も共感できたアイデア」

ブックスタートを通して、読み聞かせの予備軍をつくる
参加者を募るときに、最初に友人関係になってから相手を引き込むことが大切
子ども会は地域が盛り上げていく
子どもの考えを取り入れて活動する
若い親が受ける研修に奨学金を出す
記憶（子どもたちに小さな子たちと触れ合った記憶を残す）
子どもが手書きのチラシを作成する
仕事の一環として指導者に参加してもらう（建設会社などに地域貢献として）



(^ ^) / ~

問 3 「協議会の成果を真っ先に伝えたい人」

自分が実践している会の会員
これまで3回の出席を影から支えてくれた夫に伝えたい
図書館の担当者や同じグループの仲間
同じ活動をしている他のメンバー

社会教育委員の会があるのでその場で 自治会連合会 町内会の育成者全員 各町内会長
高校のボランティア担当教諭 福祉担当者と教育長 社会教育係長と同僚 社会教育係員
実行委員会 コーディネーターと指導員 校長先生と町内会長

問 4 「行政（市町村や道）や地域住民に望むこと」

子どもにかかわる人たちの横のつながり
他の地域と情報交換できるネットワークをつくってほしい ボランティアコーディネーターの育成と活用
子ども会の立場としては、子どもが恒常的に集える場の確保 予算がないという答えはやめてほしい
育成会と教育委員会の協議 活動時の足（車）の確保
地域みんなが子育てに関心を持つ 自分の意思を持つ町民 気軽に相談してほしい
自主的に活動する地域グループ だれもが町のことを知っているまちに
故郷を愛する人、そして愛されるような故郷を

ご協力いただきました名寄市教育委員会・名寄農業高等学校には心より感謝申し上げます